

地域中核病院としての使命

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

《 85 》

「県の基幹病院として、救急を含めた急性期治療、高度医療を推進していく使命がある」。

3月で独立行政法人化して丸5年を迎える県立中央病院。今後の課題について、土屋幸治院長がまず強調するのは「医療の分業化」だ。

同病院が緊急性や専門性を要する治療に当たり、地域の医療機関に患者を「逆紹介」して回復期の治療に当たってもらう。

「それが限られた医療資源を有効に使い、患者のニーズに効率よく応えることにつながる」と



土屋 幸治院長

「逆紹介」増やし分業化

話す。

同病院への紹介患者数はここ数年、約1万5千人と全初診患者の60%以上を占め、他の医療機関からの高い信頼度がうかがえる。逆紹介の患者数は1万2

責任者とする特定地方独立行政法人に移行。病院側の裁量権が広がり、「必要な場所に必要の人材を配置できるようにした」。医師数は167人（14年6月末現在）と01年から約60人増え、「複雑な治療が必要な重症患者を診る態勢が整ってきた」と自負する。

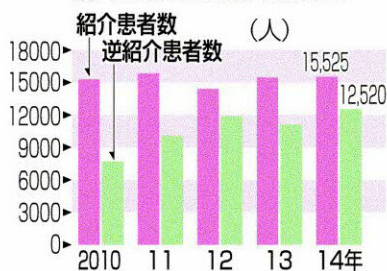
520人（2014年）と10年（7688人）から大幅に増加。他の医療機関と連携し、役割を分担する中で、地域の中核病院としての機能を果たしている。

「救急」「がん」「周産期」の分野で医療レベルの向上に力を注ぐ考えた。土屋院長は「病診連携をより強化して逆紹介率のアップに努め、急性期治療と高度医療という当院の使命を果たしていきたい」と話している。

急性期治療や高度医療を実践するためにマンパワーも欠かさない。同病院は10年4月、県直営の経営形態から、理事長を

第2、4木曜日に掲載します

県立中央病院における紹介患者数・逆紹介患者数



県立中央病院医師数の推移

